



国立健康危機管理研究機構
国立看護大学校
JAPAN INSTITUTE FOR HEALTH SECURITY
NATIONAL COLLEGE OF NURSING, JAPAN



2027

知を磨き、
看護の未来を拓く

国立看護大学校
研究課程部
看護学研究科

前期課程
(修士課程)

後期課程
(博士課程)

専門看護師
(CNS)教育課程

がん看護・精神看護
小児看護・感染症看護

Graduate School of Nursing



知を磨き、看護

研究課程部

看護学研究科の4つの特長

政策医療看護学の 発展を通じた人々の 健康と生活への貢献

政策医療とは、「国が医療政策として担うべき医療」(厚生労働省)であり、国民の健康に重大な影響のある疾病に対する医療や国際医療協力活動などを含みます。本学は、政策医療の一翼を担う看護の発展に向け、政策医療看護学の構築と発展を推進し、世界中の人々の健康と生活に貢献することをめざしており、それを実現できる人材を育成します。また、次のパンデミックを見据えた感染症をはじめとする多様な健康危機管理における看護職のリーダーとしての資質と能力を修得することができます。

研究を支える 教授陣の手厚いサポートと 充実した研究環境

研究課程部には、政策機能看護学と先駆的臨床看護学の二つの分野があり、看護職者としての実践、教育、研究経験が豊富で高い専門性を備えた教授陣が揃っています。また、分野や専門を超えて互いに学びあい、学修や研究を手厚くサポートする体制が整っています。本学の図書館は、看護・医療を中心とした約67,000冊の図書、650タイトル以上の和・洋雑誌、約5,600タイトル以上の電子ジャーナルを有し、リモートアクセスにより自宅での文献データベースの利用も可能です。パソコンや統計ソフトなど、学修や研究に打ち込める環境も充実しています。



政策医療の現場にエビデンスを実装するために

本学の研究課程部(前期・後期課程)は、先端医療と研究活動にあたる、国立健康危機管理研究機構(JIHS)および5つの国立高度専門医療研究センターとの密接な連携のもとに、エビデンスを創出し、また現場に実装するための様々なプロセスに貢献する機会が得られます。行政や専門領域の最新のトピックスと、組織間のネットワーキングを学ぶことができ、これは、国が政策的な観点から担うべき医療(政策医療)の最先端を学ぶことができる本学の、大きな特色です。

研究活動のルールは、多職種に共通です。様々な職種との研究活動に参加し、必要とされる時にリーダーシップもとれる看護学の研究者が活躍することが期待されています。当事者の近くで、気持ちを共有しながら働く職種の特性を生かし、コミュニケーションの技術を身につけた人材を育成したいと願っております。

大学校長 萱間 真美

の未来を拓く

本学が所属していた国立国際医療研究センターは2025年より国立健康危機管理研究機構 (Japan Institute for Health Security; JIHS) となりました。JIHSは国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合し、感染症に不安を抱くことのない社会の実現を目的に新たに設立された組織です。本学研究課程部看護学研究科は、健康危機管理を含めた政策医療看護学の推進という他の看護系大学院にはない特色と役割を担っています。

国立健康危機管理研究機構と 国立高度専門医療研究センター との強力なネットワーク

国立看護大学校は、日本屈指の高度先駆的医療を行う研究医療機関であるJIHS^{※1}および5つの国立高度専門医療研究センター (National Research Centers for Advanced and Specialized Medical Care:NC)^{※2}と密に連携しています。学生は、JIHSおよび5NCとの強力なネットワークを活用し、専門性の高い学修や研究を進めていくことができます。

※1: JIHSには、国立国際医療センターと国立国府台医療センターの2病院があります。

※2: 国立高度専門医療研究センターとは、国立がん研究センター (中央病院・東病院)、国立循環器病研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立成育医療研究センター、国立長寿医療研究センターを含む5センター (6病院) です。

専門看護師 (CNS) 教育課程

がん看護・精神看護・小児看護・感染症看護

CNS教育課程では、がん看護・精神看護・小児看護・感染症看護の専門看護師認定審査受験資格を得ることができます。本課程では、JIHSおよび5NCとの強力なネットワークのもと、恵まれた環境で実習を実施することができます。専門看護師に求められる高度実践能力を磨きます。また、同時に十分な研究能力を修得できるカリキュラムとなっています。既に多くの修了生が、感染症看護専門看護師、がん看護専門看護師、精神看護専門看護師、小児看護専門看護師として活躍しています。

激動の時代に生きる多様な人々の いのち・健康・くらしを見据えた研究者に

社会環境は、これまで以上に変化し続けています。その中で生きる多様な人々のいのちと健康、くらしを見据えて、適切に対応できる看護職のリーダーシップが求められています。その基盤として、物事の本質を見極めて柔軟にアイデアを創造する力、データを分析・統合して言語化する力、それを社会の人々に伝え、システム・管理・政策の変革に結び付けていく力が必要です。

この研究課程部には、健康危機管理を含む政策医療を担うJIHSおよび5NCと連携した専門教育を受ける機会と、高度実践に結びつく研究ができる充実した環境があります。また、研究を支える経験豊かな教員陣の指導と、研究課程部の仲間たちとの切磋琢磨で、研究能力を高めていくことができます。さらに、修士・博士の学位取得により、活躍と貢献の幅が大きく広がります。

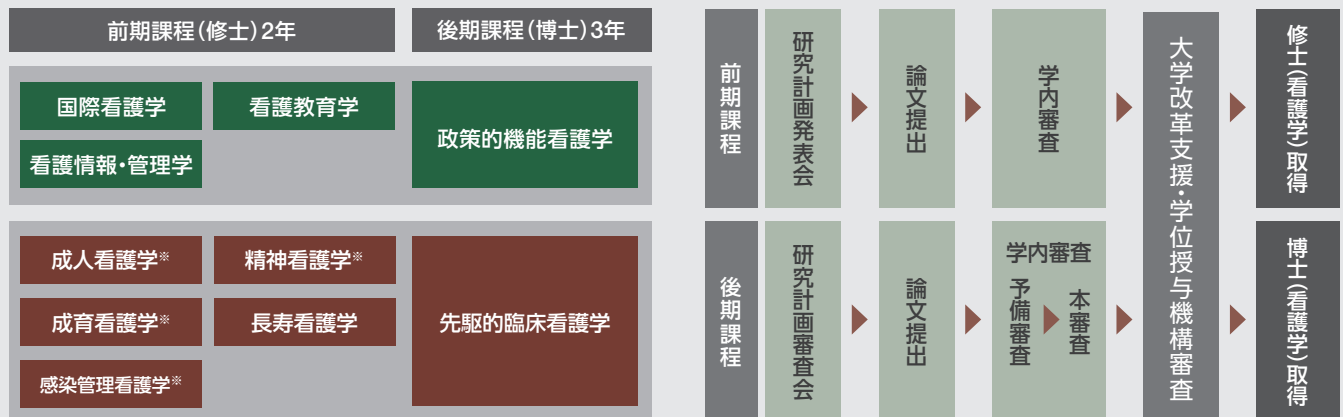
実践の中の気づきや解決したい疑問、理想の夢を温めながら、研究力と実践力を高める第一歩として、この研究課程部の門をぜひたたいてみてください。

研究課程部長 綿貫 成明



研究課程部の概要

特別研究論文作成から学位取得までの流れ



専攻する分野を1分野選び、特別研究論文を作成し、学内審査に合格した後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し、論文審査に合格することにより、前期課程は修士(看護学)、後期課程は博士(看護学)の学位を取得できます。
 ※印は、専門看護師(CNS)教育課程があります。

前期課程

教育理念

ヒューマンケアの精神、人間の健康に対する多面的な理解、科学的・論理的な思考力に立脚し、研究を通して看護実践の科学的根拠や効果的・効率的なあり方を探究するとともに、政策医療看護学の発展とそれを通じた国内外の人々の健康と生活の質向上に貢献できる人材を育成します。

教育の特徴

国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学、成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学の8分野で構成しています。

成人看護学・精神看護学・成育看護学・感染管理看護学では、がん看護・精神看護・小児看護・感染症看護の専門看護師(CNS)教育課程を設置しています。それぞれ必要な科目を選択履修することで専門看護師認定審査受験資格を得ることができます。

専門分野の教授陣が、学生個々の関心や状況に応じて細やかに学修や研究を支援します。また、他分野の教員からも研究に対する指導や助言を得る機会が豊富にあり、それは、自己の研究や専門性に対する視野を広げたり客観視したりすることにつながります。

自己の関心や状況に応じて選択できる多様な共通科目が提供されています。また、共通科目の学修を通し、質の高い看護学研究を行う基盤となる知識・技術・態度を効率的に修得できます。

教育目標

- 1 健康に関わる要因を多面的に捉えて分析・考察できる能力を育成します。
- 2 研究を通して看護実践の科学的根拠を見出し、効果的・効率的な看護方法を開発する能力を育成します。
- 3 看護実践の質向上やその効果的・効率的な展開、高度実践看護を推進する能力を育成します。
- 4 政策医療看護学の発展に向けて指導役割、教育役割を担う能力を育成します。

授業科目

共通科目

政策医療看護学特論Ⅰ、看護研究法、看護理論、政策医療看護倫理、コンサルテーション、保健経済論、看護統計学、薬理学特論、ヘルスアセスメント特論、生理学特論、看護管理学、看護継続教育

専門科目

国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学、成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学

自身のブラッシュアップの場

私は本学看護学部の6期生として学生時代を過ごし、卒業後は神経内科や精神科等の病棟で勤務していました。臨床経験を積む間に看護研究に触れる機会もあり、研究への興味が湧いたこと、また学部時代に良き仲間と出会い、良き学びを得られたと感じていたことから、本学の研究課程部への進学を決意しました。

研究課程部前期課程では、教員や他学生と双方向のやり取りをしながら学びを深めることができました。様々な分野で活躍している方々と話をすることで、新たな視点を得ることができ、自分のブラッシュアップにつながったと感じています。在学中、妊娠・出産というイベントも経験し、修了までに4年間かかりましたが、先生方の手厚い指導のもと、スタッフのメンタルヘルス支援に関する特別研究論文を書き上げられたことは、大きな自信にもなりました。

現在は病棟で時短勤務をしながら、学生指導や看護研究に携わっています。私の経験と学びが後進の育成の一助となるよう今後も励んでいきたいと思っています。

精神看護学
2022年3月修了

山崎 汐里



専門分野・担当教員・研究テーマの例

国際看護学

グローバルアジェンダの一つとして位置づけられる世界の健康課題および健康格差を、健康に影響を与える社会的状況や経済的要因をふまえて理解するとともに、看護職の知識や技術の向上によるグローバルな健康課題への積極的な貢献を探索する。

研究テーマの例

- 低中所得国における健康行動、エンパワーメント、ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアをキーワードにした調査研究
- 看護職の国際移動に関する質的研究
- 看護職の役割及びコンピテンシーに関する国際比較研究
- 低中所得国の看護教育者の能力強化支援に関する研究
- 在留外国人の健康課題や健康格差とその改善への取り組みに関する研究
- 日本で働く日本国外で看護基礎教育課程を卒業した外国人看護職に関する研究

須藤恭子 教授 宋培培 教授

看護情報・管理学

看護管理学／看護情報学／基礎・クリティカルケア看護学

看護の機能や役割を効果的・効率的に発揮していくために、組織管理の基本概念を学習し、対象の理解、看護業務の把握、人材の育成と活用、情報管理などの視点から看護の質向上に寄与する方策を探索する。

研究テーマの例

- 看護師の自己効力感や組織コミットメント、人材育成と活用、業務分析、アウトカム評価など、看護管理に関するテーマについて、量的アプローチを用いた研究
- クリティカルケア領域における看護の機能・役割、患者・家族の経験に関する研究
- 電子カルテに蓄積されたデータの二次分析に関する研究、機械学習などAI技術を用いる研究
- がん患者および家族の体験や看護支援に関する研究

小澤三枝子 教授 矢富有見子 教授 柏木公一 准教授
水野正之 准教授 森下純子 准教授

看護教育学

看護職者の自律的な発達、それを支援する質の高い教育の実現に向け、看護学生や看護職者自身、あるいは、看護基礎教育、卒業後教育、継続教育に焦点を当て、現状や望ましいあり方を探究する。

研究テーマの例

- 看護師や看護学教員のキャリア発達、それを支援する教育に関する研究
- 看護師や看護学教員の能力やその向上に関する研究
- 看護実践の質や研究成果活用に関する研究
- 新人看護師の職場適応、能力向上に関する研究
- 夜勤時の多重課題対策や新人看護師に対する支援に関する研究
- 看護職者が職業活動の改善に活用できる自己評価尺度の開発
- 看護基礎教育課程に在籍する学生に関する研究

亀岡智美 教授

成人看護学 がん看護専門看護師教育課程あり

疾病を持つ患者と家族の反応・看護ニーズの理解を基盤に、がんや循環器病をはじめとした成人患者のセルフケア能力と、生活の質の向上を図る実践的看護法を探究する。

研究テーマの例

- 成人患者、特に循環器病とそのリスクファクター（糖尿病・高血圧・肥満・脂質異常症など）、慢性病の管理を必要とする患者の看護に関する量的・質的研究
- クリティカルケア、手術を受ける患者の諸課題に関する研究
- がん治療（手術、がん薬物療法、放射線療法、造血幹細胞移植など）や緩和ケアを受ける患者に関する量的・質的研究
- がん治療中の若年成人期AYA世代患者の実態と自己効力感に関連する要因

飯野京子 教授 清水陽一 教授 杉山文乃 教授 梅田亜矢 准教授
遠藤晶子 准教授 藤澤雄太 講師 長岡波子 助教

質の高いケアを提供するための理論と実践を学びました

本学看護学部の10期生として卒業後、がん専門病院に8年間勤務しました。患者さんやご家族との関わりを通じてがん看護の専門的知識と技術の重要性を認識し、専門看護師として質の高いケアを提供したいという思いから研究課程部への進学を決意しました。

研究課程部前期課程では、がん看護に関する理論や技術、研究方法論を体系的に学びました。講義では臨床の出来事やその意味を教員や学生と話し合い、理論等に基づき現象として捉えなおすことで看護実践の意義を深く理解するきっかけになりました。また、食道がん術後患者と家族に関する研究を通じて、臨床での様々な疑問を科学的に探究したいと考えるようになりました。

現在はがん専門病院に復職し、倫理審査事務室での研究に係る業務とともに、がん看護専門看護師として病棟・外来において意思決定支援等を行っています。今後は、研究と実践を通じて得た知見を基に、より良い看護ケアのための提案を行っていきたくと考えています。

成人看護学 (がん看護専門看護師教育課程)
2023年3月修了

松永 崇



精神看護学 精神看護専門看護師教育課程あり

精神障害者の回復と生活の質の向上または心の健康課題に直面している人々のメンタルヘルスを実現するために、対象者のニーズや希望、社会構造・環境、精神医療政策・医療支援システム、看護倫理など多面的な観点から、看護上の課題と役割について探究する。

研究テーマの例

- 精神障害者のリハビリ、エンパワメント、レジリエンスに関する研究
- 精神障害者の意思決定支援、自立支援、社会参加に関する研究
- 精神医療に関連のある現象の解明、実践知の理論化、および看護援助技法の開発に関する研究
- 精神障害者の家族に関連のある現象の解明、実践知の理論化、および専門職としての支援法の開発に関する研究
- ストレスマネジメント、地域住民の心の健康づくり、自殺予防、対人援助職としての看護師自身の心のケア等、メンタルヘルスに関する研究

萱間真美 大学校長 森真喜子 教授 松浦佳代 講師
新田真由美 助教

長寿看護学

老年看護学／地域・在宅看護学

健康長寿社会を目指し、高齢者及び地域で生活する人々の自立促進や自立支援、健康づくりに関する長寿看護学の役割と課題を考察し、社会構造、家族・地域、在宅介護支援などに関する研究課題と実践的看護を探究する。

研究テーマの例

- 高齢者の健康・生活機能・セルフケア能力の維持・向上に関する研究
- 老年症候群の発現予防や緩和を目指した先駆的な看護の機能と特徴に関する研究
- エンドオブライフ期の意思決定の支援に関する研究
- 在宅で生活する療養者および家族の看護に関する研究
- 人々の健康を支える地域ケアシステムや多職種連携に関する研究
- 訪問看護管理、退院支援に関する研究
- 個別・集団・地域を対象とした支援と看護に関する研究

綿貫成明 研究課程部長 藤田淳子 教授 古川彩子 講師

成育看護学 小児看護専門看護師教育課程あり

小児看護学／母性看護学・助産学

子どもと家族を理解するための諸理論を学修し、現代社会における妊娠・出産、胎児期から思春期までの母子に関する保健・医療・看護の課題について考察し、母子とその家族を支える看護の研究課題と実践的看護を探究する。

研究テーマの例

- 小児看護倫理、子どもの事故予防に関する研究
- 子どもの生活習慣、食習慣、健康増進に関する研究
- 地域で療養する子どもと家族の看護に関する研究
- 子どもの難病、慢性疾患の看護、成人移行期支援に関する研究
- 開発途上国の母子保健、分娩環境、思春期教育方法の開発に関する研究
- 更年期女性の健康、健康教育プログラム開発に関する研究
- 周産期各期の対象者に対して行うケアと子育て支援に関する研究
- リプロダクティブヘルス／ライツに関する研究
- 女性の生涯（ライフステージ各期）の健康に関する研究

池田真弓 教授 来生奈巳子 教授 遠藤数江 准教授
日置智華子 准教授 五十嵐由美子 講師 野村智実 講師

感染管理看護学 感染症専門看護師教育課程あり

病院、地域、国際医療協力などの場における日常的な感染管理活動、感染症多発時や災害発生時における高度な感染管理、感染症看護実践に必要な知識と技術を学習するとともに、看護の質向上に資する方策を探究する。

研究テーマの例

- 感染管理活動の効果を検証する研究
- 医療関連感染サーベイランスデータを活用した研究
- 費用対効果分析等による感染管理活動の効率性評価に関する研究
- 感染症患者の看護や個人に対する感染防止のケアに関する研究
- アウトブレイク調査に基づく要因探索研究
- 皮膚常在菌の分布と手指衛生との関連の検討
- 輸入感染症対応に携わる看護師の準備性に関する研究
- 薬剤耐性微生物の伝播防止や抗微生物薬適正使用に関する研究

西岡みどり 教授 網中真由美 准教授 森那美子 准教授

課題の克服に向けて、粘り強く取り組む姿勢を学びました

私は看護師として働きながら、自己の看護実践の質向上に課題を感じていました。そのような時、看護実践の質に着目した研究論文と出会い、この論文を執筆した研究者に学びたいと考え、研究課程部前期課程に入学しました。前期課程を通して、研究の基礎的知識を学び、さらに自立して研究を遂行する力を身につけたいと考えたため、後期課程に進学しました。

後期課程の研究遂行にあたっては、さまざまな課題に直面しました。指導教員からの支援や課題克服に向けた自己の取り組みを通して、一言一句にこだわり、正確かつ適切な言葉を用いて思考を表現すること、多様な情報を吟味して意思決定を行い、その結果を引き受けること、困難な課題に直面しても諦めることなく、粘り強く丁寧に取り組む姿勢を学びました。今後は、質の高い看護実践の実現をめざし、次世代の育成にも貢献するとともに、その実現に資する研究成果の産出に取り組んでいきたいと考えています。

政策的機能看護学 看護教育学分野 後期課程
2024年3月修了

高橋 聡子



後期課程

教育理念

前期課程（修士課程相当）で培ったヒューマンケアの精神、人間の健康に対する多面的な理解、科学的・論理的思考力の発展を図り、独創的な研究を自立して遂行できる人材を育成します。

教育の特徴

政策的機能看護学（国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学）、先駆的臨床看護学（成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学）の2分野から1分野を選び、前期課程（修士課程相当）において取り組んだ研究を発展させることができます。

専門分野の学修を行い、前期課程（修士課程相当）で培った能力を高めるとともに、博士（看護学）の学位取得に向けて特別研究論文を作成します。

専門分野の教授陣が、学生個々の関心や状況に応じて細やかに学修や研究を支援します。また、他分野の教員からも研究に対する指導や助言を得る機会が豊富にあり、それは、自己の研究や専門性に対する視野を広げたり客観視したりすることにつながります。

特別研究論文を作成して学内審査に合格した後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し、論文の審査及び試験に合格することにより、博士（看護学）の学位を取得できます。

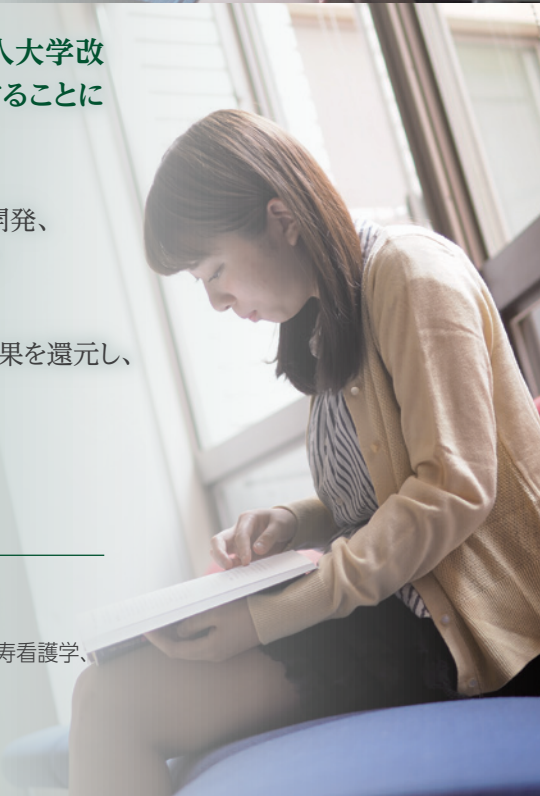
教育目標

- 1 看護実践の科学的根拠の発見、効果的・効率的な看護方法の開発、それらを通じた政策医療看護学の発展につながる独創的な研究を自立して遂行する能力を育成します。
- 2 社会的諸状況を踏まえながら日本国民および世界の人々に研究成果を還元し、その健康と生活の質向上に貢献する能力を育成します。

授業科目

共通科目 政策医療看護学特論Ⅱ、量的看護学研究法、質的看護学研究法

専門科目 国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学、成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学



オープンキャンパス日程 2026年5月10日(日)・7月18日(土)・10月10日(土)

- 最新情報は、国立看護大学校ホームページ (<https://www.ncn.ac.jp>) で随時紹介しています。動画による各研究領域のご紹介も行っていますのでぜひご覧ください。
- 個別面談 (Web面談、電話相談等にも対応) は、随時受け付けています。grad-nyushi@ncn.ac.jp へお気軽にお問い合わせください。

入試日程

- 毎年9月下旬に第一次募集の入試を実施しています。
- 定員に余裕がある場合、12月中旬に第二次募集の入試 (若干名) を行います。
第1次募集試験日: 2026年9月8日(火)
第2次募集試験日: 2026年12月15日(火)
*第1次募集で定員を満たした場合は第2次募集はありません。

学費

入学料	授業料		
	前期	後期	年額
282,000円	267,900円	267,900円	535,800円

*入学料・授業料は改訂することがあります。専門看護師教育課程は、実習費用が別途必要です。*環境保全料が別途必要です。

【長期履修制度】*を利用できます

*長期履修制度: 常勤で働きながら学ぶ場合や相当の理由がある場合に、履修期間を、前期課程 (修士課程相当、修業年限2年) は3~4年に、後期課程 (博士課程相当、修業年限3年) は4~6年にすることについて、入学時に申請し認められると利用できる制度です。

*長期履修期間を通して納める授業料は、通常の修業年限の場合と同額です。

【一般教育訓練給付制度】*が利用できます

*一般教育訓練給付制度: 研究課程部を修了した場合、学費の一部 (上限10万円) が給付されます。支給要件、申請等については、ハローワークのWebページでご確認ください。

問い合わせ先・アクセス情報

本学の受験に興味のある方は、随時相談をお受けしています。
お気軽にお問い合わせください。



研究課程部のホームページはこちら→

国立健康危機管理研究機構

国立看護大学校
事務部学務課

研究課程部看護学研究科入試担当

〒204-8575 東京都清瀬市梅園 1-2-1

電話 042-495-2211 (代表)

内線 5110・5111

E-mail: grad-nyushi@ncn.ac.jp

清瀬駅から大学までのアクセス

徒歩 西武池袋線「清瀬駅」南口から徒歩15分

バス 西武池袋線「清瀬駅」南口②乗場より

西武バス「複十字病院」下車(5分)

*西武バスは、「久米川駅行」、「下里団地行」、「花小金井駅行」、「滝山営業所行」があります。

